

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04586

研究課題名(和文) デューイの反省的思考に根ざした道德教育理論の現代的意義

研究課題名(英文) The significance of moral education theory based on John Dewey's theory of reflective thinking

研究代表者

早川 操 (HAYAKAWA, Misao)

椋山女学園大学・教育学部・教授

研究者番号：50183562

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)： ジョン・デューイの「反省的道德」教育理論がわが国の教育改革に与える影響を検討するために、その可能性についての分析と考察を行った。第一の研究成果として、デューイの反省的道德理論の特徴の解明について取り組んだ。第二に、デューイの「反省的道德」理論とL.コールバーグの「道德性発達段階」理論との比較分析を行い、両者の理論の共通点と相違点を解明した。第三に、わが国における20世紀前半と後半におけるデューイ教育理論の受容と展開の系譜を解明することによって、21世紀のデューイ研究に求められる理論的実践的課題を「創造的民主主義」の観点から考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ジョン・デューイの「反省的道德」教育理論の特徴と課題を検討することにより、21世紀に求められる探究教育理論を構築することを目的とする。この研究により、現代学校教育改革の焦点となっている「主体的な学習」や「考え、議論する道德」の理論や実践への示唆を、デューイの反省的道德教育理論から得ることをめざす。また、デューイの反省的道德教育理論の特徴を明らかにするために、コールバーグの道德性発達理論との比較考察や、わが国における問題解決学習理論の系譜を考察することにより、21世紀の探究教育理論の可能性を探る。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this research project is to clarify the structure of John Dewey's "reflective morality" with special reference to the role of reflective thinking and moral education. This project aims to search for the influence of the role of reflective morality upon the educational reform and school education in our country. It also promotes an inquiry into the impact of Dewey's reflective morality upon the student-centered learning and moral education. A comparative analysis of the moral theory of Dewey and L. Kohlberg and a historical analysis of the acceptance of Dewey's theory of reflective thinking in our country during the 20th century will be conducted.

研究分野：教育学

キーワード： 反省的思考 反省的道德 コールバーグの道德的発達論 加速化させる道德的発達 深い学びとしての探究学習 創造的民主主義 コミュニケーションと探究の融合

1. 研究開始当初の背景

本研究は、アメリカの教育学者ジョン・デューイの「反省的思考に根ざした道德教育理論」の特徴を考察することにより、彼が提案した反省的思考や問題解決を軸にした道德教育理論や教育実践が、わが国の現代教育改革における新たな道德教育にどのような示唆を与えてくれるのかを解明することをめざす。

わが国におけるデューイの反省的思考の研究については、問題解決学習との関連で研究されてきたものが多く、牧野宇一郎(1977)『デューイ教育観の研究』、杉浦美朗(2007)『真の知の教育 デューイ教育学の再構築』、藤井千春(2010)『ジョン・デューイの経験主義哲学における思考論』などがある。

また、デューイの道德教育理論についての最近の研究成果については、デューイの道德授業論、道德指導方法、デューイ道德理論の継承などの研究論文が日本デューイ学会編(2010)『日本のデューイ研究と21世紀の課題』に掲載されている。

デューイの道德教育論と生きる力の関係を論じた、柳沼良太(2012)『「生きる力」を育む道德教育 デューイ教育思想の継承と発展』などがあり、現代道德教育の転換についての研究が進められている。

2. 研究の目的

本研究は、ジョン・デューイの「反省的道德」教育理論の特徴と課題を検討することにより、現代に求められる探究的な道德教育理論の構築を目的とする。この研究により、現代学校教育改革の焦点となっている「主体的な学習」や「考え、議論する道德」の理論や実践についての示唆をデューイの反省的道德教育理論から得ることをめざす。

また、デューイの反省的道德教育理論の特徴を浮かび上がらせるために、コールバーグの道德性発達理論における思考力の役割との比較検討や、20世紀初期と後期におけるデューイの問題解決学習や反省的思考の受容と継承の系譜を分析することに取り組む。

3. 研究の方法

研究方法としては、第1に、道德的状况における反省的思考のプロセスとその展開についての理論的分析を行い、これまでの研究成果をレビューする。具体的な事例分析としては、『思考の方法』や『倫理学』の事例や、道德教育の基礎理論としての『倫理学』における事例を取り上げて検討する。これは「基礎的研究課題」である。

第2に、デューイの反省的道德教育理論とL.コールバーグの道德性発達理論を比較研究することによって、道德性の発達や成長について両者の共通点や相違点を検討する。この取組みは、デューイの反省的道德教育理論の特徴を浮かび上がらせるために道德性発達理論という対照的な道德理論を取り上げて比較考察する「比較思想的アプローチ」である。これは「応用的研究課題」である。

第3に、わが国におけるデューイの反省的道德教育理論の受容と継承の系譜をたどること、21世紀のデューイ教育理論パラダイムの可能性を「創造的民主主義」教育の観点から再検

討する。20世紀初期と後期におけるデューイ教育理論の系譜を分析することによって、21世紀のデューイ研究に求められる理論的実践的課題を「創造的民主主義」の観点から展望する。これはまとめとしての「発展的研究課題」である。

4. 研究成果

ジョン・デューイの「反省的道德」教育理論がわが国の教育改革に与える影響を検討するために、その可能性についての分析と考察を行った。第一に、デューイの反省的道德理論の特徴については、2017年9月に早稲田大学で開催された日本デューイ学会第61回研究大会において本研究課題に関する個人研究発表を行ない、2018年に「デューイの『反省的道德』論の現代的意義」『日本デューイ学会紀要』59号に掲載された。

第二に、デューイの「反省的道德」理論とL.コールバーグの「道徳性発達段階」理論との比較分析の研究成果は、2018年9月に開催された日本デューイ学会第62回研究大会において個人研究発表を行ない、2019年に「コールバーグによるデューイ道徳理論の評価についての考察」として『日本デューイ学会紀要』60号に掲載された。

第三に、わが国における20世紀初期と後期におけるデューイ教育理論の受容と展開の系譜を解明することによって、21世紀のデューイ研究に求められる理論的実践的課題を「創造的民主主義」の観点から考察した。その研究成果は、2020年に出版された日本デューイ学会編『民主主義と教育の再創造』（勁草書房）に「わが国におけるデューイ探究学習の受容と変容 20世紀の問題解決学習から21世紀の探究学習へ」と「あとがき 21世紀の創造的民主主義と教育」として掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 早川操	4. 巻 第60号
2. 論文標題 コールバーグによるデューイ道徳理論の評価についての考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本デューイ学会紀要	6. 最初と最後の頁 41, 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川 操	4. 巻 59
2. 論文標題 「デューイの「反省的道徳」論の現代的意義」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本デューイ学会紀要』	6. 最初と最後の頁 71, 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川 操	4. 巻 85巻第2号
2. 論文標題 「デューイ・スクール シカゴ大学実験学校：1896-1903」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育学研究』	6. 最初と最後の頁 220, 223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川操	4. 巻 58
2. 論文標題 デューイの実験的探究と二一世紀の教育	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本デューイ学会紀要	6. 最初と最後の頁 139, 147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 早川 操
2. 発表標題 「コールバーグによるデューイ道徳理論の評価についての考察」
3. 学会等名 日本デューイ学会第62回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 早川操
2. 発表標題 デューイの「反省的道徳」論の現代的意義
3. 学会等名 日本デューイ学会第61回研究大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 井上 弘貴、伊藤 邦武、沖永 宜司、加賀 裕郎、宮崎 宏志、小口 裕史、新 茂之、早川 操、松下 晴彦、柳沼 亮太、江川 晃、浜野 研三、笠松 幸一、苜野 一徳、藤井 千春、高頭 直樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 270
3. 書名 プラグマティズムを学ぶ人のために	

1. 著者名 日本デューイ学会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 330
3. 書名 民主主義と教育の再創造ーデューイ研究の未来へー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

椋山女学園大学教育学部・大学院ホームページ
<http://www.edu.sugiyama-u.ac.jp/staffs/index2.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------